

資料 5-1

課題別地域保健医療推進プラン 職域及び大学における歯科健診受診勧奨事業

1 事業実施までの経緯

歯科疾患は全身疾患と関連していることが報告されており、口腔の健康状態は全身の健康状態と密接に関係している。

また、むし歯（う蝕）や歯周病は、発症、進行してしまうことで歯を喪失するリスクが高まり、食事や会話をする等の日常生活にも支障をきたしてしまうことがある。

歯科健診は母子保健法や学校保健法等により高等学校を卒業するまでは義務付けているが、高等学校卒業後は本人の自主性に任せられている。加えて、進学や就職、結婚等生活環境の変化に伴いかかりつけ歯科への通院が困難になる等の要因で、定期的な歯科受診の機会が減少する可能性が考えられる。

一方で、令和 6 年度より健康増進法に基づき区市町村で実施する歯周病検診の対象者が 40 歳以上から 20 歳と 30 歳を加え拡大されたことから、いわゆる「国民皆歯科健診」実現に向けて切れ目のない歯科健診の体制が整いつつある。生涯にわたり歯や口腔の健康を維持、増進するためには、早期からかかりつけ歯科医を有し、定期的な歯科受診等を習慣づけ、予防だけでなく口腔疾患の早期発見、早期治療に努めることが重要で、そのためには若年層からの普及啓発が求められる。

※東京都歯科保健推進プラン「いい歯東京」の 4 本の柱の 1 つである「ライフステージに応じた歯と口の健康づくりの推進」において、特に青年期（18 歳～30 歳）はライフスタイルの変化によりむし歯（う蝕）や歯周病のリスクが高まる傾向にあり、学校や職場等、様々な対象へのアプローチにより普及啓発を実施することとしている。

2 事業目標

口腔の健康は、全身の健康と密接に関わりがある。そのため、早期から定期的に歯科受診をし、健診を受けることで口腔疾患の早期発見、早期治療につながる。多摩小平保健所管内 5 市（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市）の中で、大学数が最も多い小平市を選定し、その内 2 校の大学と小平商工会に協力を依頼し、下記の目標を掲げた。

『小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔の健康に関する意識の向上を図る。』

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				検討会議の委員選任、委嘱	8月～11月上旬 小平商工会関係者等に対するアンケート調査の実施			アンケート調査結果の分析、課題の抽出 令和 7 年度に行う普及啓発ツールの検討			
				7月 30 日 検討会議開催		9,10月 大学生、教職員等に対するアンケート調査、歯科相談の実施					

3 令和6年度事業内容

(1) 「歯科健診受診促進のための検討会議」の開催

関係機関や市と連携、協力した取組を行うために、検討会議を設置し、学識経験者、社会歯科学会理事長（管内歯科医師会会长）、小平市歯科医師会会长、小平商工会事務局長、小平市内の大学で健康管理を担当している職員2名、小平市健康課長、多摩小平保健所副所長を委員とした。

会議では、主にアンケート調査の内容や効果的な調査方法等について検討した。



<検討会議の様子>

(2) アンケート調査及び歯科相談の実施

【アンケート調査】

アンケート調査を行うことにより、口腔状態の満足度や定期的な歯科受診の状況等実態を把握した。調査票を作成するにあたり「令和4年度 東京都青年期実態調査」を参考とした。

・対象者：小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等

・実施時期：事前に担当者と協議し、対象者が十分に集まる下記の時期に実施した。小平商工会関係者等へは、商工会が実施する健康診断、小平市産業まつりの説明会や当日に実施（令和6年8月下旬～11月上旬）。

小平市内の大学2校（学生、教職員等）へは、大学が実施する健康イベント等に合わせて実施。（同年9月中旬～10月中旬）

・調査方法：オンラインフォーム（Logo フォーム）上に入力またはアンケート用紙に記入とした。アンケートの受付や調査協力の声掛けには、所内管理課や市町村連携課の応援を得て実施。なお、大学においては、学内のポータルサイトにアンケート票を掲示し、調査当日だけでなく事前にも回答できるようにした。

【歯科相談】

小平市歯科医師会による歯科相談を大学の学生、教職員（アンケート調査の対象と同一校）の希望者に対し、実施した。

○相談者数：計26名

○主な相談内容：
・むし歯（う蝕）、歯周病について
・治療中の歯について
・歯磨きの方法
・頸関節症について
・親知らずについて



<アンケート調査会場の様子>

(3) 口腔の健康に関する普及啓発グッズ等の作成

アンケート調査の際に、歯科健診の受診を促進するための普及啓発グッズを作成した。

また、のぼり旗を作成し、調査の際に使用することで啓発活動の効果を高めた。

○普及啓発グッズ



トートバッグ



コンパクトミラー



付箋



ポーチ

4 アンケート調査結果 【アンケート調査の回答（一部抜粋）】

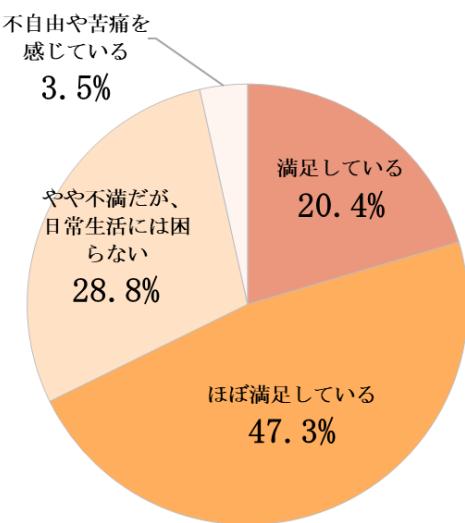
《大学生》

小平市内の大学2校に在籍する全学生計3648名に対し、375名より回答を得られた。（回答率：10.3%）その内回答の不備を除く有効回答は、372件であった。

年齢：平均年齢 20.5歳 (min 18歳、max 56歳)

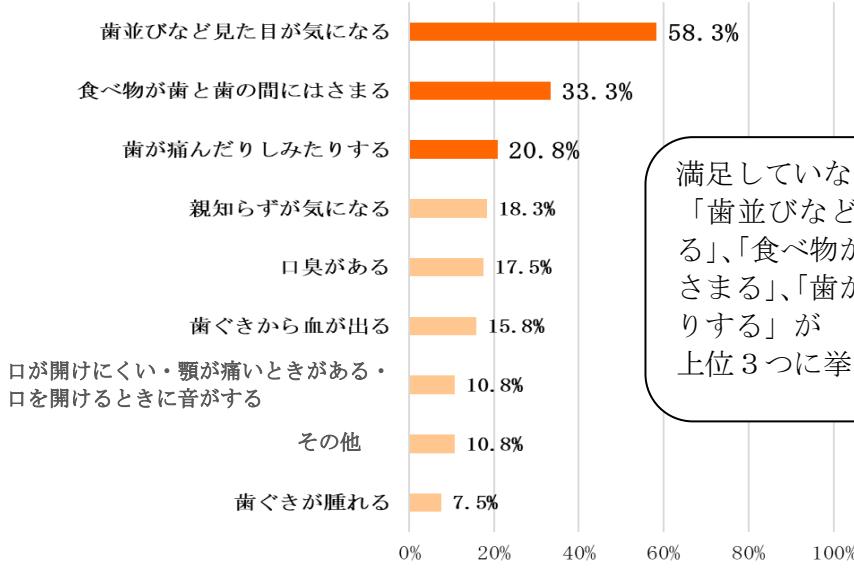
性別：男性 30.9%、女性 66.4%、回答したくない 2.7%

○ご自身の歯と口の状況について、どのように感じていますか。



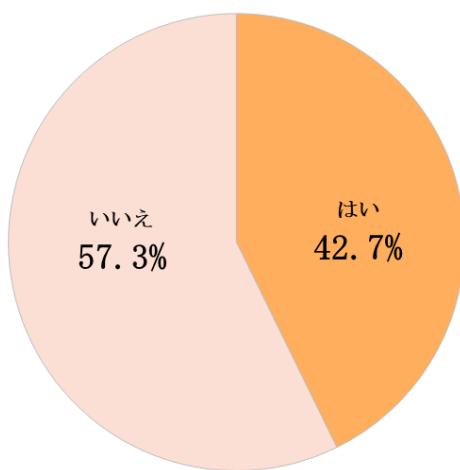
歯や口の状況について、67.7%の者が「満足している」「ほぼ満足している」と回答した。

○（上記の質問で「やや不満だが、日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じる」と回答した者に対して）ご自身の歯と口の状況について、どのようなことに満足していないですか。（複数回答可）



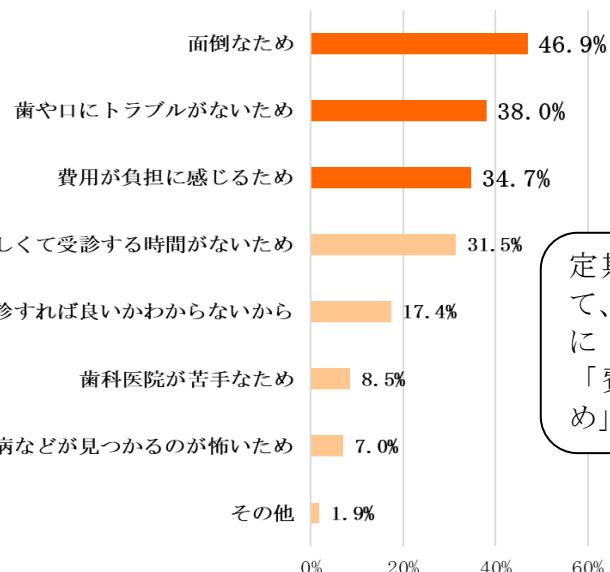
満足していない理由として
「歯並びなど見た目が気になる」、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」、「歯が痛んだりしみたりする」が
上位3つに挙げられた。

○定期的に歯科健診を受診していますか。



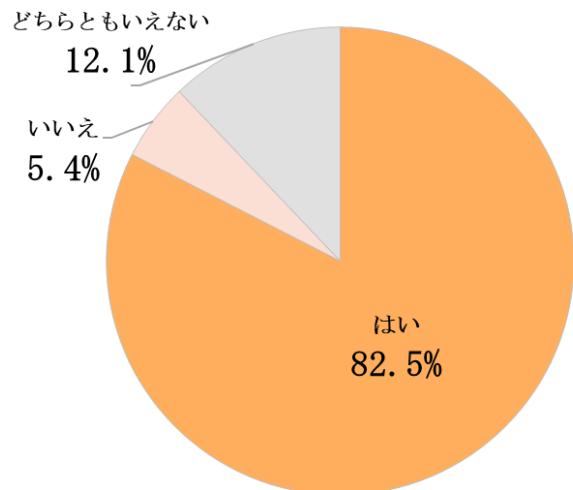
定期的に歯科医院を受診している者は、42.7%であった。

○（上記質問で「いいえ」と回答した者に対して）そのように回答した理由を教えてください。（複数回答可）



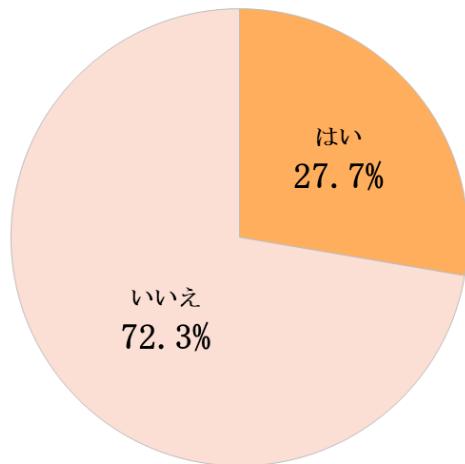
定期受診しない理由として、「面倒なため」、「歯や口にトラブルがないため」、「費用が負担に感じるため」が挙げられた。

○定期的にご自身の歯と口の状態をチェックしてもらった方がいいと思いますか。

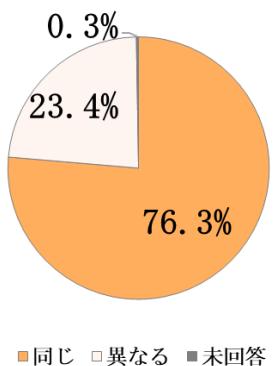


定期的に歯と口の状態をチェックしてもらった方がいいと思うものは、82.5%であった。

○お住いの市区町村が歯科健診を行っていることをご存じですか。

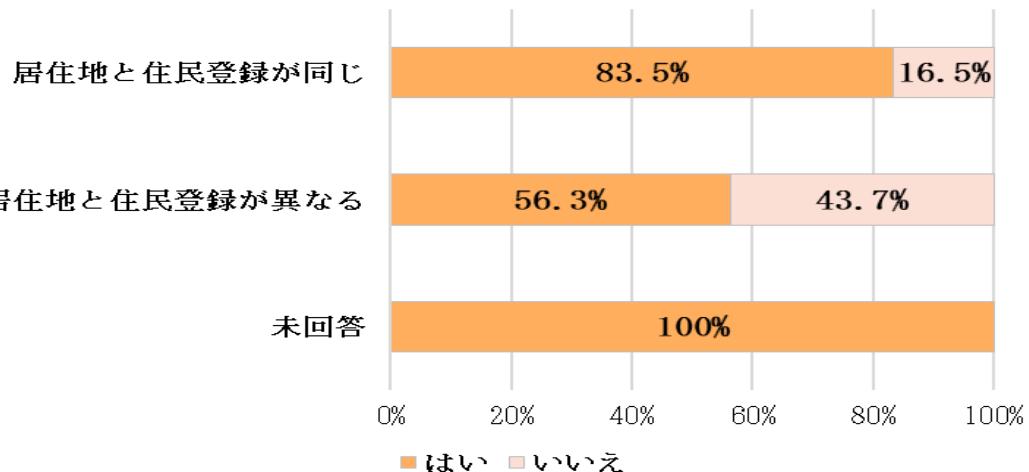


【参考】
居住地と住所登録（住民票）について



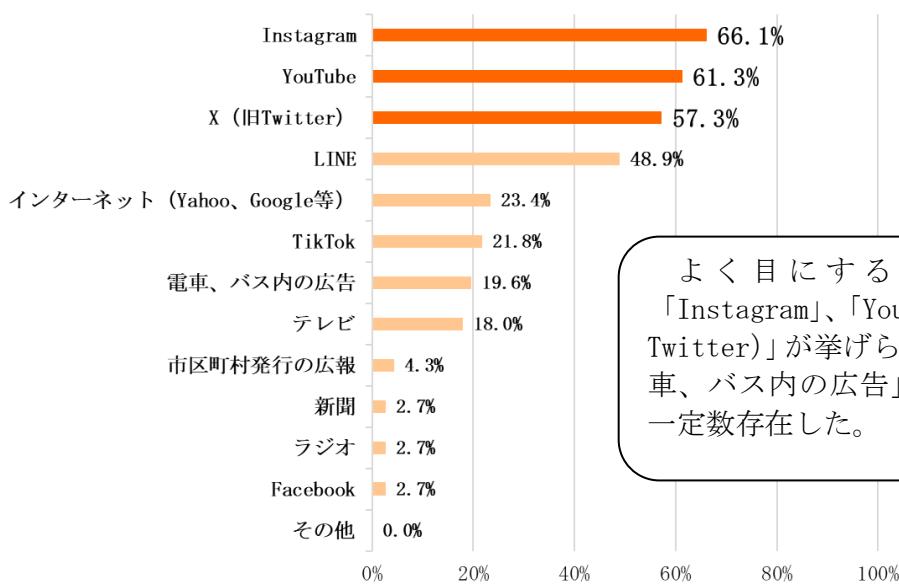
自治体が行っている歯科健診を知っている者は、27.7%であった。

○歯や口のトラブルが起きた時や、歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にありますか。



「歯や口のトラブルが起きた時や、歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にあるか」という問い合わせで「居住地と住民登録が同じ」者で「いいえ」と回答した者は 16.5% であった。それに対し「居住地と住民票が異なる」者で「いいえ」と回答した者は 43.7% であり、「居住地と住民登録が同じ」者を 27.2 ポイント上回った。

○よくご覧になる広告媒体を教えてください。(複数回答可)



よく目にする広告媒体は、「Instagram」、「YouTube」、「X (旧Twitter)」が挙げられた。一方、「電車、バス内の広告」を挙げる者も一定数存在した。

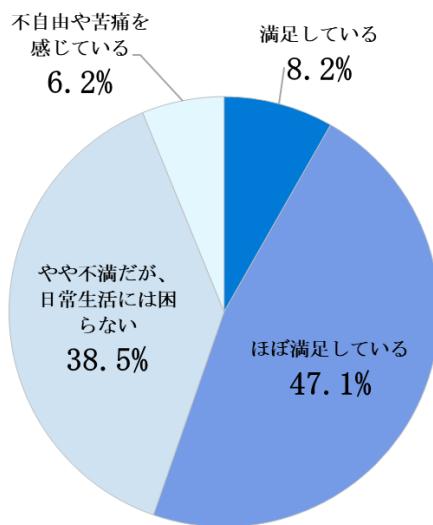
《職域》

市内大学2校に勤務する全教職員計696名に対し、132名より回答を得られた。(回答率：19.0%) 小平商工会関係者(健康診断受診者、小平市産業まつり関係者)211名に対し、164名より回答を得られた。(回答率：77.7%) その内、回答の不備を除く有効回答は市内大学2校に勤務する教職員は132件、小平商工会関係者は、159件の計291件であった。

年齢：平均年齢 50.6歳 (min 21歳、max 86歳)

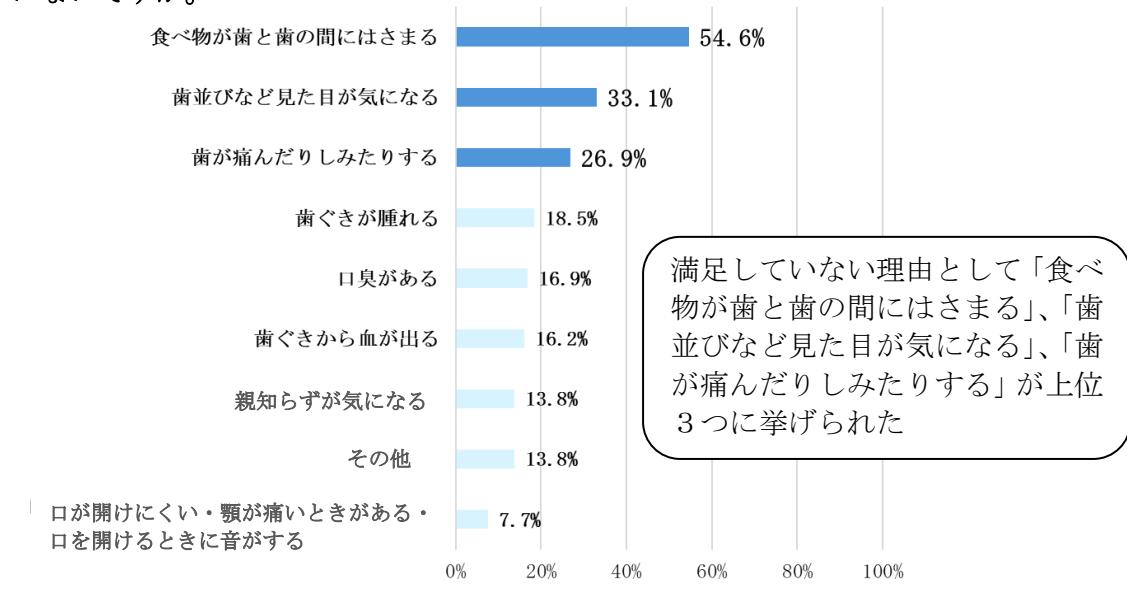
性別：男性 57.0%、女性 41.9%、回答したくない 1.0%

○ご自身の歯と口の状況について、どのように感じていますか。

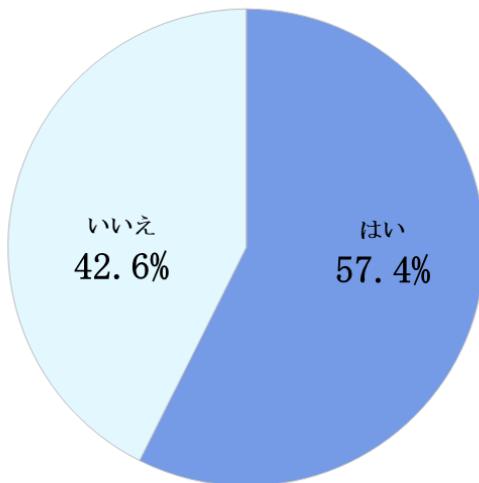


歯や口の状況について、55.3%の者が「満足している」「ほぼ満足している」と回答した。

○(上記の質問で「やや不満だが、日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じる」と回答した者に対して) ご自身の歯と口の状況について、どのようなことに満足していないですか。

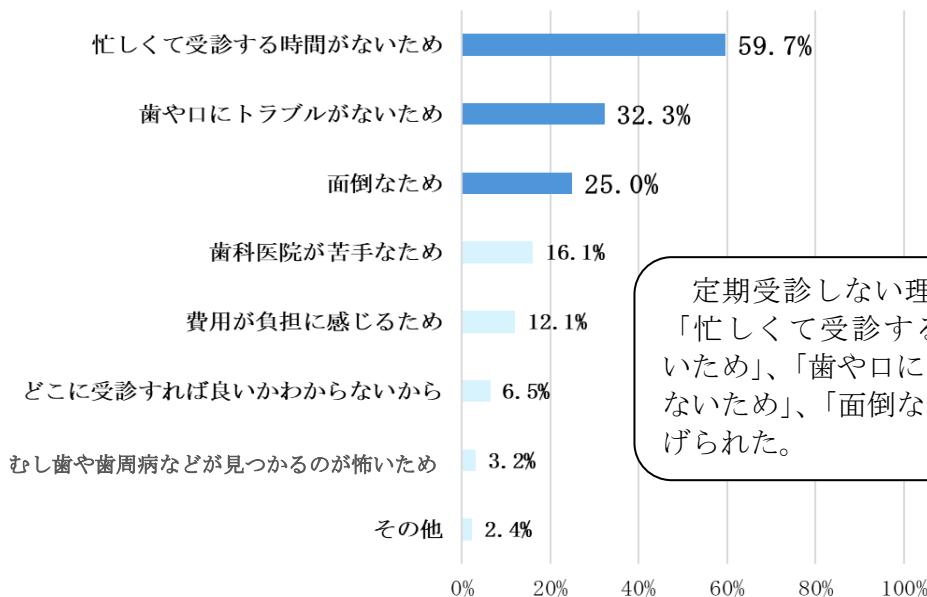


○定期的に歯科健診を受診していますか。



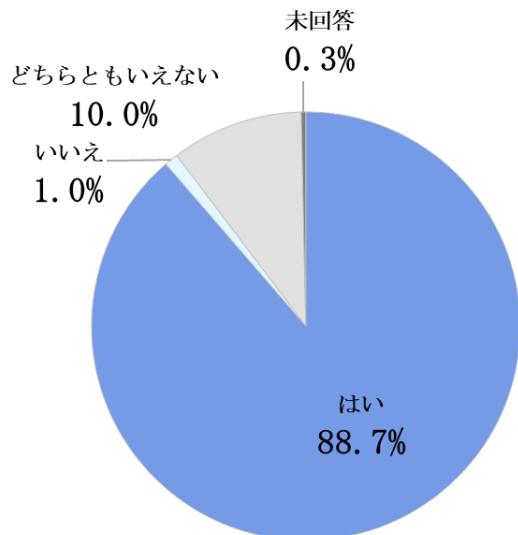
定期的に歯科医院を受診している者は、57.4%であった。

○（上記質問で「いいえ」と回答した者に対して）そのように回答した理由を教えてください。（複数回答可）



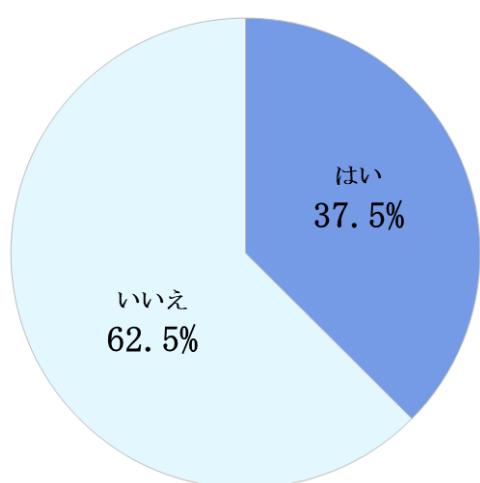
定期受診しない理由として、「忙しくて受診する時間がないため」、「歯や口にトラブルがないため」、「面倒なため」が挙げられた。

○定期的にご自身の歯と口の状態をチェックしてもらった方がいいと思いますか。

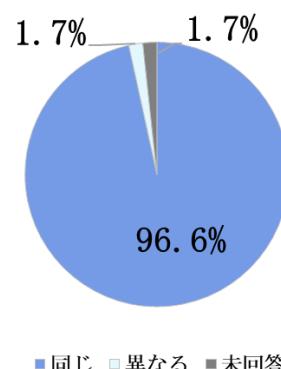


定期的に歯と口の状態をチェックしてもらった方がいいと思うものは、88.7%であった。

○お住いの市区町村が歯科健診を行っていることをご存じですか。

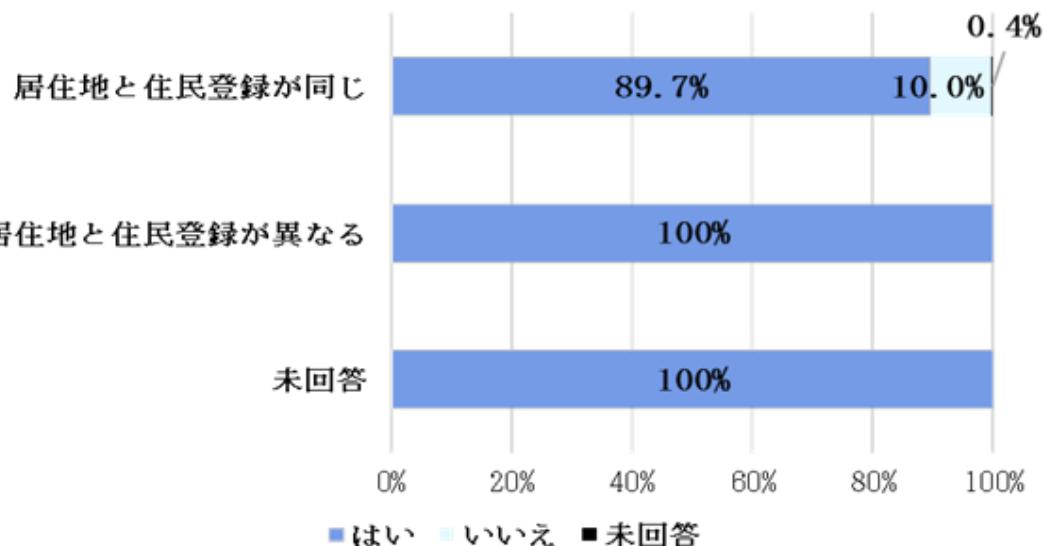


【参考】
居住地と住所登録（住民票）について



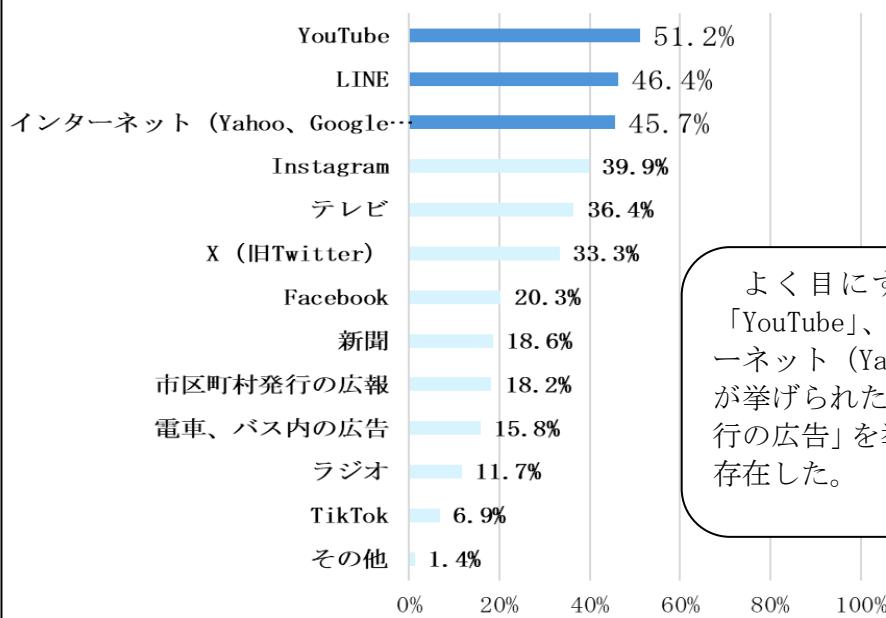
自治体が行っている歯科健診を知っている者は、37.5%であった。

○歯や口のトラブルが起きた時や、歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にありますか。



居住地と住民登録が異なると回答した者の中でトラブルが起きた時や歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にない者はいなかった。

○よくご覧になる広告媒体を教えてください。(複数回答可)



よく目にする広告媒体は、「YouTube」、「LINE」、「インターネット (Yahoo, Google 等)」が挙げられた。一方「市町村発行の広報」を挙げる者も一定数存在した。

《アンケート調査結果のまとめと考察》

○歯や口腔の状況について、職域では4割以上、大学生では3割以上の者が「やや不満だが、日常生活には困らない」、「不自由や苦痛を感じている」と回答した。その理由として、歯周病の症状の一つとも考えられる「食べ物が歯と歯の間にはさまる」ことが多く挙げられた。歯周病やむし歯（う蝕）の初期段階では、自覚症状が乏しく、症状が現れた時には、すでに進行している可能性も高い。治療が必要になると、通院回数や治療期間が長くなるとともに治療費がかかることも考えられるため、歯科に定期受診をし、自身の口腔内の状態を把握する等、予防や早期治療を行うことが重要となる。以上のことより、かかりつけ歯科医をもち、定期的に受診することの重要性について普及啓発する必要があると考える。

また、すでに受診をしている者に対しては、定期受診の継続を促すことも重要であると考える。

○自治体が実施する歯科健診を知っている者は、大学生では約3割、職域では約4割であった。大学生では、現在の居住地に住所登録をしていない者は23.4%おり、その中で歯や口のトラブルが起きた時や歯科健診等で受診する歯科医院が現在の環境にない者は43.7%であった。自治体が実施する歯科健診は歯科医院を受診するきっかけとなり、かかりつけ歯科医を有していない者にとっては健診受診を機にかかりつけ歯科医を見つけることができる可能性もある。大学生では、特に歯科受診を妨げる原因として「費用が負担に感じるため」を挙げる者も多くいたことから、無料ないし手ごろな値段で受けることができる自治体が実施する歯科健診は、受診のきっかけになると考える。そのため、かかりつけ歯科医をもち、定期受診の重要性を普及啓発する際に自治体が実施する歯科健診について情報提供することは一つの有効な方法であると考える。

5 令和6年度の評価

小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔状態の満足度や定期的な歯科受診の状況等に関するアンケート調査を行い、実態を把握した。アンケート調査の結果から、令和7年度に行う定期的な歯科受診を促進するための効果的な普及啓発ツールの検討につなげることができた。

また、アンケート調査の際、大学の学生や教職員の希望者に対し、同市歯科医師会会員である歯科医師に歯科相談を行うことで、口腔内の悩みやトラブル等の問題解決を図ることができた。

6 令和7年度の計画及び今後の展開

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		6月11日 第1回検討 会議開催						普及啓発			3月 第2回 検討 会議 開催

- ・令和7年度第1回「歯科健診受診促進のための検討会議」の開催（6月11日）

会議では、令和6年度に実施したアンケート調査の実施方法や調査結果の速報等について事務局より報告を行った。その上で、令和7年度は定期的な歯科受診促進のための効果的な普及啓発に向け、ツール（ショート動画、ステッカー、ポスター）を作成し、保健所ホームページ等のSNSや公共機関等においてもポスターを掲示することで広く啓発活動を行うこととなった。詳細に関しては、対象機関の委員とともに検討する。令和8年3月（予定）に第2回「歯科健診受診促進のための検討会議」を開催し、2年間の事業のまとめを行うとともに、報告書を作成し、関係機関に配布を行う。

小平市内の大学に在籍する学生や勤務する教職員、小平商工会関係者等の口腔の健康に関する意識の向上を図ることで、口腔の健康、全身の健康さらにはQOLの向上に寄与することを念頭に事業を進めていく。